

地域に根ざし、次世代へ「笑顔」を繋ぐ

特別
対談

日本サッカーのレジェンド・金田氏
マニユライフ生命・外池氏と小山氏



人生100年時代、あらゆる世代の人々が充実した暮らしを実現するために、今できることは何か……。保険とスポーツは一見すると縁遠いようでありながら、そこに携わる人々が地域社会の未来を思い、課題の解決に向けて協力し合う姿勢において共通している。このほど、マニユライフ生命保険専務執行役員の外池宏之氏と同社執行役員チーフ・エージェンシー・オフィサーPA営業本部長の小山快之氏、そして日本サッカー界のレジェンドとして知られ、国内のサッカー創生期を支えた文化の継承活動を行っている一般社団法人日本サッカー名蹴会の金田喜稔会長による特別対談が実現。誰もが希望を胸に生きられる社会を実現する上で、保険業界とサッカー界がともに担う役割の大きさや連携の可能性について、熱く語り合った。

ランドセルが繋ぐ地域との絆

金田氏 心、体、そして経済面での健康をいかに維持・向上するかを突き詰めると、保険という答えに行き着くという皆さんの考え方に、強く共感しています。まずは、ウェルビーイング向上の支援に向けた、具体的なご活動の内容を改めて聞かせてください。

外池氏 地域貢献を大切にする私たちの姿勢を示す取組例として、「未来の背中応援プロジェクト」が挙げられます。活動のヒントとなったのは、当社がスポンサーをしている奈良クラブ（Jリーグ加盟のプロサッカークラブ）でのランドセル贈呈の取組みでした。これは、奈良クラブの選手がホームゲームでゴールを決めるたび、ランドセルを一つ、児童養護施設に寄付するというものです。

小山氏 子供たちの笑顔をモチベーションにして頑張る選手たちのひたむきさに、私たち自身も感化されました。そこで昨年から、お客様からお預かりしたご契約の件数に応じて、各地の児童養護施設にランドセルを贈るというプロジェクトを全国規模で実施したのです。通常の売上ペースで行けば20個程度の贈呈と予想していましたが、実際にはその倍以上の41個を、合計19箇所の施設にお贈りすることができました。



金田喜稔氏

1958年、広島県生まれ。中央大学2年生で日本代表に選出され、1977年6月に行われた日韓戦での代表初ゴールは、日本代表歴代最年少得点ゴール（19歳119日）として今も刻まれている。卒業後、日産自動車株式会社サッカー部（現・横浜F・マリノス）でもチームの中心選手として活躍し、国内タイトル7冠獲得に貢献。国際Aマッチ58試合出場。変幻自在のドリブルを得意とし、「キンタダンス」と呼ばれる独特のフェイントで世界の選手を驚愕させた。また、日本代表ではベレ、ベッケンバウアー、マラドーナ、ケンペス、クライフなど世界のスタープレイヤーと対戦した経歴をもつ。現役引退後は、サッカー教室の開催、サッカー日本代表戦の解説者をつとめるなど、サッカーの指導・普及活動にあたる。2010年、日本サッカー名蹴会会長に就任。2021年9月、初代JFAシニアサッカーアンバサダーに就任。

金田氏 成果を選手や営業担当者自身だけでなく、子供たちの笑顔のために還元するという試みがやる気に繋がり、さらに実績を押し上げたということです。業界内外の多くの人に感銘を与える、象徴的なエピソードだと思います。

シニアの元気を支えるスポーツ文化

小山氏 実際に子供たちがランドセルを背負ってみせてくれた場面では、参加した社員の間で、頑張った甲斐があったと涙ぐむ姿も見られたほどです。

外池氏 日本全体が長寿化する中で、元気な地域社会を支え続けるため、私たちに何ができるのか——それを考える時、スポーツを通じた人と人との交流の中には大きなヒントがあるとともに、それ自体が地域貢献の実践の形でもあると確信しています。

金田氏 若い世代はもちろん、元気なシニア

多くありませんでした。

しかしコロナの影響で、屋外で楽しめるからこその状況でも人々の結びつきを再構築できるというサッカーの大きな可能性に改めて思い至りました。そこで全国の関係者に声をかけて各地でクリニックの運営を始め、今では関東を中心に全国で展開しています。

さはよく分かります。

外池氏 私も元サッカー少年だったので、仲間とともに練習や試合に打ち込む楽し

金田氏 もちろんクリニックの主目的は健康寿命の延伸であり、生涯スポーツの実践ですが、結果として、各地で新たなコミュニティが形成されています。練習後の食事会やSNSでの日々のやり取りが習慣化し、災害時にはお互いの安否を確認し合えるようなネットワークが自然発生的に広がっているのです。クリニックを通じて各地のサッカーコ

ミュニティが活性化すれば、結果的にジュニアや女子、シニアのチームが新たに立ち上げられるかもしれません。子供時代にお世話になったコーチと、自分が大人になったときも繋がりが続くことができるといった関係性の連鎖を自然に広げていくことが、私の思い描いている理想の姿です。

外池氏 金田さんが主導しているコミュニティ創出の取組みの中には、今の社会が



外池宏之氏

1989年4月、株式会社三和銀行（現・三菱UFJ銀行）入行、94年から同社東京営業本部第二部長代理を務める。2000年1月にアイエヌジー生命保険株式会社入社、07年5月に同社執行役員金融法人営業企画本部担当に。アクサ生命保険株式会社執行役員、アフラック生命保険株式会社執行役員を経て、22年1月、マニユライフ生命保険株式会社の執行役員に。24年7月、同社専務執行役員チーフ・ディストリビューション・オフィサー（CDO）就任。



小山快之氏

1997年4月、アリコジャパン（現・メットライフ生命保険株式会社）入社。同社でフィールドラーニング本部人材開発部長、ソリューションラーニング部長などを歴任。14年3月から、AIGジャパン・ホールディングス株式会社日本・APAC営業教育部長を務める。AIGパートナーズ株式会社チーフ・ディストリビューション・オフィサー（CDO）を経て、2022年1月、メットライフ生命保険株式会社の執行役員チーフ・エージェンシー・オフィサー（CAO）就任。

の寂しさを感じたことがありましたが、九州で地元のサッカーチームに誘われてからは友人の輪が一気に広がり、練習の日以外にも食事を一緒にするような仲間を得て、人と人をつ結びつけるスポーツの力を実感しました。

抱えている孤独や分断といったさまざまな課題を解決する重要な鍵があると感じます。

がります。オーバー80（80歳以上で編成）のチームが全国10以上も活動を続けているのも、おそらく日本だけでしょう。

金田氏 シニア同士の繋がりを生み出す試みは、サッカー界全体で拡大しています。

最近では40代〜60代を中心に、高校サッカーのOBが集まる大規模な交流大会が開催されています。部活動という日本独自の文化を背景として、いわばピッチ上が同窓会の会場になって、2日間の大会で1000人超が来場するほどの盛り上がりです。

小山氏 80歳を超えた方々が元気いっぱい。ピッチを走り回る姿を想像するだけでも、脱帽です。シニア世代にとってコミュニケーションとの繋がりは、身体的な健康や経済的な安定と並んで、豊かな暮らしを支える重要なファクターですよ。

私自身も大学を卒業して就職後、何度か転勤を経験しました。いわゆる転勤族

次世代が希望を持てる社会に

外池氏 マニユライフがアジア各国・地域を対象に実施した調査結果を取りまとめた「アジアケアサーベイ」によれば、日

地域に根ざし

本の生活者は老後への不安が他国に比べて非常に高く、健康寿命と資産寿命の両立が大きな課題となっています。

小山氏 国際連合の予測では、日本の平均寿命は2050年までに88・4歳に達するとされています。一方でサーベイによると、「長生きや寿命を最大限に延ばすことが第一の望み」だと回答した人の割合は日本で6%にとどまりました。寿命の延伸より人生の質を重視する傾向は特に若い世代で顕著です。平均値を見ると、25〜34歳の人は自分の平均寿命を74歳と予想しながら、望む寿命は65歳と回答しており、9歳ものギャップが見受けられる状況です。

外池氏 若い方々が夢を持ちにくいことは、その国の社会にとっていわば黄信号です。保険やスポーツの持つ力を結集し、希望を持てる社会の実現に貢献できないかと考えています。

金田氏 初めて出会った人でも、サッカーの話題になると一瞬にして距離が縮まるということとは珍しくありません。金融というテーマを突然持ち出すと多くの人は身構えてしまうかもしれませんが、スポーツという共通言語を通じて、金融・経済を身近に感じる機会が広がると思いますね。

外池氏 楽しみながら学ぶことは、地方ごとの情報格差という課題を克服する上でも極めて重要だと考えています。私たちは2015年から、高校生に金融・経済について学んでもらい、その知力を競う「エコノミクス甲子園」のメインスポン

次世代へ「笑顔」を繋ぐ

ポートをご提供する際には、それぞれのお客様がどのような暮らしを希望されるかを、丁寧にお聞きすることが重要です。「老後もスポーツを続けていきたいかどうか」といった具体的な方向性についてお話できれば、お客様との間で、いっそう鮮明な将来像を共有することができるとでしょう。

金田氏 ちようど今年カナダ、アメリカ、メキシコでワールドカップが開催され、五輪効果と相まって世界中でスポーツが盛り上がる年なので、高校生たちにとって大きな刺激になると良いですね。

サーを務めています。地方銀行とも連携して、全都道府県で高校生のクイズ大会を開催し年に1回、都内で決勝戦を行っています。昨年のチャンピオンは私たちマニユライフの本拠地があるカナダに招待しています。

外池氏 私たちが金融のプロフェッショナルとして提供する資産寿命への備えと、名蹴会の皆さんが情熱を注がれる健康寿命の延伸は、人生100年時代を豊かに生きるための車の両輪と言えるでしょう。私たちもスポーツを通じた地域のコミュニケーション形成や次世代育成により深く関わっていくことで、すべての世代が「長生きして良かった」と心から思える、希望に満ちた社会をともに築き上げていければと願っています。

小山氏 実際にライフプランニングのサ